

1980年代生まれの父親の子どもへの教育期待について
ー 中国四川省都市部における父親のインタビュー調査から ー

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
人間形成・臨床教育クラスター
Yang Luqi

「改革・開放」政策を実施した後、1980年代における中国は経済、文化、教育などでの変動が起きたため、時代とともに成長してきた1980年代生まれの世代に対しては新たな認識が必要である。中国では、共働き家庭の数は増え、男性は家事、育児への参加も増えてきた。本研究では、中国都市部の共働き家庭における1980年代生まれの父親を対象に、どのように育児に携わっているのか、子どもにどのような期待を持っているのかについて分析する。

本研究では、父親6人を対象とし、半構造化面接を行った。結果としては、まず、父親は子どもへの物資の提供の限度を持っているが、子を「溺愛」する傾向も見られる。次に、父親は意識的に子どもと接する時間を作る。また、父親にとって、子どもの健康への期待は最も重要なことである。父親は学歴競争及び就職競争のプレッシャーから生まれた辛さを感じてきたため、自分の子には明るく社交的な性格を期待しているが、子どもの無邪気な思いを保留しつつ成長させたい気持ちとの葛藤もある。学歴、職業は子ども自分にまかせるが、子のよりよい生活のため、大卒の学歴を持つことを基本的に期待する。父親は夫及び息子の役割にも以前より深く関心を持ち始めた。最後、父親の育児方針は彼ら自身が子どもの頃に受けた教育の影響を受けた。

子どもを育てることは父親にとっては神聖な使命であり、育児や教育への期待も彼ら自身の成長との相互作用があると結論づけられる。